

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------------------|-----|-------------|
| ○事業所名 | 多機能型事業所ほっぼ 放課後等デイサービス | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年12月11日 | | ～ 令和8年1月31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 18名 | (回答者数) 16名 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年2月4日 | | ～ 令和8年2月13日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 4名 | (回答者数) 4名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月10日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 他児との関わりやコミュニケーションから得られる学びを重要と考えていること。 | 話し方や伝え方などに耳を傾け、必要に応じてその都度支援者が仲立ちをして正しい話し方や伝え方を教えていくこと。 | ・子どもが主体的に考えて行動できるように、言葉や考え方を引き出せるように関わっていく。 ・非認知能力をあげられるような、活動や関わり方を行っていく。 |
| 2 | 家庭ではなかなかできない体験ができること。 (課外活動など) | ・事前の情報収集、下見やルートやトイレ等の確認。 | ・四季が感じられるような活動の提案。 ・期待感が膨らむような、事前の声掛けや活動内容の周知。 |
| 3 | 縦割り(児童発達支援の利用者も一緒に活動する)を意識し、上の子は下の子にやさしくしたり、お世話をしたりする経験を持つことができ、下の子から頼られることで自信につなげることができる。 | ・活動の中でも児童の利用者さんを意識しながら、活動に参加できるように、お世話を願ったり、優しくできたことを褒めたりして、自信につなげたり、自己肯定感を上げられるように関わっていく。 | お当番など、一緒に関わりを増やしていく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 専門的な特性を持っている利用者さんへの支援が弱い。 | 保育士以外の専門職員(STやOT)がいないため、支援の幅が限られてしまっている。 | OT・STの採用をしたいが、人員配置が方になるため、継続した運用が難しくなる。 |
| 2 | 利用日数の少ない児童がいるため、継続した支援が難しいこと。 | ・毎日来ている子や、利用日数が多い子は他児との関係性が作りやすく、支援も継続的にしやすいが、利用日数が少ないと、その子の課題に対する解決的な支援ができていく。 | できるだけ、週2日以上の子どもの受け入れを考えていく。 |
| 3 | 活動が単調、マンネリ化している。 | 児童主体で活動を考えているため、悪い意味では自由すぎるところがある。 | 実現したい支援との問題は表裏一体の部分があるので、自由の中にも「ねらい」や変化、発展を考えていけるような活動を提案していく。 |